

Dual Energy CTを用いた急性期椎体圧迫骨折診断のご紹介

椎体圧迫骨折の診断では、脂肪抑制T2強調画像による新旧骨折の判別などその情報量が多いためMRIが一般的に用いられています。

近年、Dual Energy CT (DECT※) 解析技術を用いた診断が注目されています。DECTでは特定の組織成分の密度を画像化する物質密度弁別画像の作成が可能です。この画像の1つとして水を強調し、カルシウム成分を抑制する**水密度(カルシウム抑制)画像**があります。水密度画像は骨髄浮腫を描出でき、新しい骨折・骨挫傷などの診断に役立ちます。

※ DECTとはエネルギーの異なる2種類のX線を使用したCT撮影のことで、通常のCT画像に加え様々な情報を得る技術です。

【機器別画像紹介】 腰背部外傷症例



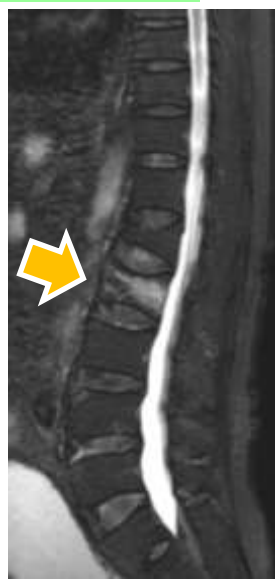
a:レントゲン画像



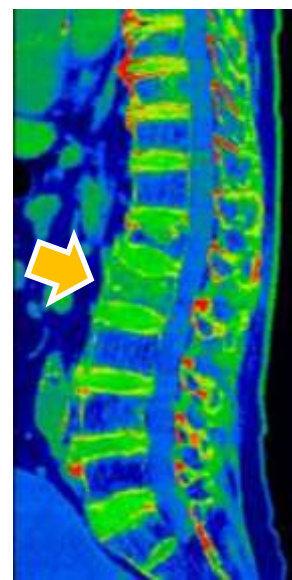
b:CT画像



c:MRI T1強調画像



d:MRI脂肪抑制T2強調画像



e:DECT水密度(カルシウム抑制)画像

診断結果

- レントゲン(a)およびCT(b) から第1及び第2腰椎圧迫骨折と診断されたが新旧骨折の判断は出来ていない。
- MRIのT1強調画像(c)、脂肪抑制T2強調画像(d)にて浮腫性変化の有無に応じて第2腰椎は急性期圧迫骨折、第1腰椎は陳旧性の圧迫骨折と診断された。
- DECTの水密度画像(e)においても、MRIと同様に第2腰椎のみ骨髄浮腫を示す所見を認め、急性期圧迫骨折の可能性を示唆する。(橙色の矢印)

現在の予約状況 (緊急検査は随時対応致します)

《CT》 即日対応可 《PET》 翌平日対応可

《MRI》 約10日以内 《放射線治療》 随時受付中

ご予約・お問い合わせ

地域医療連絡室 (JUNC) まで



0120 - 107 - 352

受付時間

8:30~19:00 (月~金)

8:30~13:00 (土) ※日祝日は休み